

## 「外交官が教える英語 ～世界に通じる英語とは～」

講師：外務省 英語通訳官 柏口 温子 先輩

略歴：H.14 年本校卒，H.19 年東京大学法学部卒，同年外務省入省，プリンストン大学  
留学，大使館勤務を経て現在国際法局国際法課課長補佐 英語通訳官

日時：8月20日（月）12:30～13:30

場所：南館3Fホール

日本外交の最前線で英語通訳官として活躍されている柏口温子先輩を迎えて、「外交官が教える英語 ～世界に通じる英語とは～」の演題で講義をしていただきました。約80名の生徒・教員が熱心に柏口先輩の講義に耳を傾けました。

テレビの国際関係のニュースで、メモを取りながら外務大臣に耳打ちしている通訳官の姿を見ることがあると思いますが、通訳官は外務省でもトップクラスの語学力と通訳スキルを持つ中堅職員（5～6名）が任命されているそうです。

英語通訳官には日英の言語そのものに精通していることはもとより、これらの言語の広範な背景知識を踏まえて、瞬時に日英の微妙なニュアンスを的確に双方に伝える高度な能力と技術が求められます。精神的にたいへんな緊張と重圧をとまなう仕事だと思いますが、外交の最前線に立って、活躍されている柏口先輩は「すごい！」ですね。

世界には約7000の言語があるそうですが、こうした言語間の橋渡しをする言葉（公用語）として英語はますますその重要性を増しています。楽天やユニクロなど英語を社内公用語にしている日本企業の話聞いたことがあると思います。また、私たちに身近なところでは、2020年度入試からは4技能（読む・聞く・話す・書く）を評価されるようになりますね。こうしたことも念頭に置いて、英語を学ぶのであれば、世界で通用する「ホンモノ」の英語を意識して学んでほしいというのが、外交の最前線で活躍する柏口先輩のメッセージです。

「ホンモノ」の英語（世界で通用する英語）を学ぶ際に日本人学習者が気をつけなくてはならない「4つのワナ」と、英語をマスターするための「3つのポイント」を教えてくださいました。

普段の授業とは異なる視点からのお話に、生徒たちはもとより先生方も熱心に聞き入っていました。講演後に質疑の時間をとって、生徒たちの質問にも丁寧に答えてくださり、気がつくやと予定時間を過ぎていました。

最後に受講生を代表して、本那生徒会長がお礼のことばを述べて、刺激に満ちた講義は終わりました。

### 日本人学習者が陥りやすい「4つのワナ」

1. 文法的には正しくても、ネイティブは会話でほとんど使わない  
～It is . . . / There is . . . のワナ～
2. 言いたいことはわかる, でもネイティブはそう言わない  
～直訳のワナ～
3. 実は意味が違う和製英語  
～カタカナ英語のワナ～
4. 実は難しい主語の選択  
～「I」を多用するワナ～

### 英語をマスターするための「3つのポイント」

- ・ 類義語の違いを理解する  
例：陸海空を含めて兵士と言う場合に、soldiers では不適切になる。  
※ soldiers は陸軍兵士を意味するので、service members と表現する。
- ・ できるだけ多くの同義語を習得する
- ・ 多様な文体を操る  
ネイティブは別な単語や表現で言い換えて繰り返しは避ける。

### 勉強の仕方

日本人英語から一歩抜け出して「ホンモノ」の英語を身につけるためには、「英英辞典」, 「英和活用辞典」, 「シソーラス」, 「TED」, 「英字新聞」, 「テレビ (CNN や NHK の同時通訳)」, 「インターネット (Google をコーパスとして使う)」などを使って、ネイティブ感覚を身につける勉強方法を提案してくれました。

また、質疑応答の中で、自分の気持ちや考えを英語で表現するのに英文日記をつけることが役に立つとおっしゃっていました。

日本の第一線で活躍する先輩による講義を開催・受講することができたことを大変ありがたく思いました。柏口先輩の今後ますますの活躍を祈念するとともに、先輩に教えていただいたことを1つでも、英語の学習・教授に活かしていきたいと思いました。

(文責：国際交流課 大久保)